

## 【留 学 報 告 書】

総合管理学科 松下朋加

私はモンタナ州立大学ビリングス校へ留学しました。

ビリングス校は学生数が約4200人。敷地内がとても広く、キャンパス内では野ウサギ、道路では鹿等を見ることができ、自然が豊富な町でした。初めて大学に行った時、日本の大学と比べてあまりにスケールが大きく、驚きました。慣れないうちは、授業に行くのに教室が分からず迷うほどでした。スポーツジムの施設もありました。私はまた、卒業式や選挙の投票風景も見ることができ貴重な体験もたくさんしました。



私は8月からモンタナへ行き、英語を勉強したくて留学しました。しかし勉強することが苦手な私にとって、留学ということはとても大変なことでした。

そして人見知りする性格もあり、なかなか英語が口から出てきませんでした。住んで二ヶ月位までは苦しみましたが、英語を話さないと自分の考え、感情を理解してもらえないので少しずつ、英語を話すようになりました。

この10ヶ月の留学は、私の物事に対する考え、将来の生き方などのあらゆる方面において影響を与える素晴らしい体験となりました。私は今回の留学で初めて、いつも共に



〔寮の外観〕

生活していた家族、慣れ親しんでいた家を離れ、不安に感じることもたくさんありましたが生活の些細なことさえがとても新鮮に感じられました。例えば買い物する時、授業で教わったことのない言い回し、聞いたことのない単語を何度も耳にし、時には恥じもかき、やっとのことで品物を買っていました。しかし、そんな些細なことが生きた言葉に触れる貴重な体験でした。この10ヶ月間で学んだのは、語学だけではなく。例えば、人の考え方は様々で、どれも大切にすべき、ということです。モンタナでの人との出会い、交流、何もかもが私にとって宝物です。ある日、私はルームメイトと話をしていました。すると、ルームメイトが「クリスチャンではない男性とは結婚できない」と言っていました。日本では結婚する時に宗教のことはそこまで深く考えられないので、私は初めそれを聞いた時びっくりしましたが、結婚に対する考えも人それぞれで私にとって興味深い出来事でした。

生活していた家族、慣れ親しんでいた家を離れ、不安に感じることもたくさんありましたが生活の些細なことさえがとても新鮮に感じられました。例えば買い物する時、授業で教わったことのない言い回し、聞いたことのない単語を何度も耳にし、時には恥じもかき、やっとのことで品物を買っていました。しかし、そんな些細なことが生きた言葉に触れる貴重な体験でした。この10ヶ月間で学んだのは、語学だけではなく。例えば、人

海外からの留学生やアメリカ人との交流を通して得たものも、もちろんたくさんありますが、国際理解がどんなに難しいものか、という事も肌で感じました。相手を理解しよ



うと思えば思うほど、お互いを傷つけたりすることもあると思います。私のホストマザーが「良い関係を築くには、お互いの忍耐が必要」と言っていました。本当にそうだと思います。忍耐をもって、長い時間をかけ、お互いのことを理解しようとする気持ちがあれば必ず素晴らしい国際交流ができると思います。どのようにすればお互いを理解できるか、ということも留学を通して分かったような気がしています。

最後に、この留学の間にいろいろお世話になった先生方、家族、同期の留学生たち、そしてモンタナでの友達たちに感謝し、自分なりに何らかの形で社会に貢献することでお世話になった方々に恩返しをしたいと思っています。10ヶ月という留学は終わりましたが、いろんなことに興味を持ち、勉強を続け、この留学で培ったものを大切に、これからもっと自分自身を磨きたいと思っています。